
「海の生き物を守る会」メールマガジン No.27

2008. 11. 1 (土)



Association for Protection of Marine Communities (AMCo)

Homepage : <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

「今日の海の生き物」 バイカナマコ *Thelenota ananas*

沖縄以南の熱帯・亜熱帯太平洋の浅いサンゴ礁の海に生息する大型のナマコで、大きいものは 80cm に達することもある。全体に褐色から赤褐色で、腹側は特に赤みが強い。サンゴ砂を飲み込んで、その表面に付着しているバクテリアやその他の有機物を食べる。干して中国料理に最も多く使われる乾燥ナマコの種類であるが、そのために近年の中国料理ブームで需要が急激に増加し、日本もむくめ東南アジアや太平洋州の各地で乱獲が心配されている。急激に個体群が減少していると思われるが、ナマコ類の科学的な研究はまだ少ない。



(石垣島にて 向井 宏撮影)

目次 「今月の海の生き物」 バイカナマコ

1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース
2. 当会の現在の活動と予定
3. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報
4. 事務局便り
5. 編集後記
6. 「うみひろも」と「海の生き物を守る会」について

1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース

【関東】

●写真で綴る三番瀬の四季

千葉県浦安、市川、船橋、習志野の四市にまたがる東京湾奥部の浅海・三番瀬に関心を持ってもらい、自然の大切さを伝えたいと、いくつかの市民団体が集まって構成する「三番瀬カレンダー制作実行委員会」（佐野郷美委員長）が「三番瀬カレンダー2009」を制作した。2000部を印刷し、小中高校などに配布するが、一般にも販売している。好評なら来年以降も続けたいとのこと。

【東海】

●遠州灘海岸でも浸食が進む 対策委員会発足

浜松市の中田島砂丘で砂浜の浸食が進んでいる。国や県、市の当局者と専門家らが「遠州灘沿岸浸食対策委員会」を設置し、浸食が著しい海岸の保全策に取り組むことになった。土砂の動きを科学的に解明するための「遠州灘プロジェクト」も同時に進行している。国交省では本年度、天竜川の佐久間ダムに堆積した土砂を下流に流す排砂用バイパストンネルの建設計画を策定し、「環境と調和した」新たな土砂管理も検討しているというが、あいかわらずダムの治水対策に重点を置いた対策にならないように住民が監視していかなくてはならない。

【近畿】

●田辺湾で相変わらずアマモの種まきが行われている

和歌山県や田辺市、新庄漁協などで行われる「田辺湾におけるアマモ場造成事業ネットワーク」が、田辺湾の内の浦湾でアマモの種まきをしている。「海のゆりかご」と言われるアマモが順調に生育し、豊かな水産資源が維持されるように作業に励んだらしいが、アマモが無くなった原因は解消されたのだろうか。

内の浦湾ではかつてアマモ場が豊富にあったが、近年は非常に少なくなり、今ではアマモ場といえるところは、一・二ヶ所しかない。それもきわめて狭い範囲である。県や地元の関係団体が協議会をつくり、2005年から3年計画でアマモの造成事業を進めてきた。08年度からは協議会のメンバーらでネットワークを組織し、アマモ場づくりを継続している。しかし、アマモ場が無くなった原因を見つめることを飛ばして、技術的にアマモを植えてもアマモ場は復活しない。

善意でアマモ場を復活させたいと願っている協議会のメンバーたちは、アマモ場が無くなる原因に目をつぶらされることになるだけである。「アマモ場造成事業」と聞いたら、まず眉につばを塗って騙されないようにすることが必要だ。

【中国】

●山口県が埋め立てを許可！ 上関原発予定海域

中国電力が6月に申請していた上関原発予定地の長島田ノ浦の埋め立てが10月23日に山口県知事によって許可された。祝島の住民などからの1457通に上る埋め立て反対意見書や5万筆を超える埋め立て反対署名にもかかわらず、二井知事は「原子力の安全性にまで踏み込んで審査する必要は法的にない」と述べ、実質的に原発建設にゴーサインを出した。中国電力は2010年度原子炉着工を目指して取り付け道路の建設など実質的な工事にすでに着工している。

原発建設に反対して保証金の受け取りを拒み続けている祝島の住民520名のうち74名が連名で20日に裁判所に埋め立てを認めないように訴えたばかりだったが、直ちに埋め立て差し止め訴訟に切り替えて、今後も戦い続けることを宣言した。25日には現地で緊急に反対集会が開かれた。長島の自然を守る会の高島美登里さんは「全国の皆さんの支援と期待に応えることができず、本当に申し訳ない気持ちで一杯です。しかし、今これからできることを最大限やるしかありません」と述べ、今後の環境権訴訟を進める決意を述べました。

●保安林解除も予告 上関原発予定地

山口県は上関原発予定地の長島田ノ浦の埋め立てを23日に許可した翌日、今度は中国電力が用地造成のため県に申請した魚つき保安林の指定解除について、森林法に基づいた指定解除予定を告示した。今後、利害関係者から意見書を受け付け、解除の最終的な判断を行うが、一気に原発建設の障害を取り除いて原発建設に突っ走る県の姿勢を露わにしたといえる。

対象の保安林がある土地は中電が所有しており、地先漁業権者も原発建設に反対していない県漁協四代支店であることや、土地所有者や地先漁業権者以外の人は意見書を出す権利を認められないことなどから意見書は提出されない公算が大きいいため、最も早い日程では、12月4日にも県によって保安林指定解除が行われる可能性が高い。

●県庁前で埋め立て免許に抗議

上関町の原発建設で、山口県が公有水面埋め立て免許を中国電力に交付したのを受け、反対派の住民や支持団体の約 200 人が 28 日、県庁前で抗議集会を開いた。集会は建設予定地に近い祝島の「上関原発を建てさせない祝島島民の会」など 5 団体が参加。22 日の二井関成知事の免許決定に対し、島民の会の山戸貞夫代表は「埋め立ては漁場の海を破壊すると同時に、知事が予定地の真正面 4 キロにある祝島の住民を見捨てる意思をはっきり示した」と県の対応を批判。「私たちの命と生活がかかっている。原発計画と埋め立てを止めるために全力を注ぐ」と決意を述べた。

県は、前庭周辺や知事室の入り口に約 20 人の職員を配置して住民が県庁に入ることを阻止した。集会は埋め立て認可の取り消しを求め行動し「完全阻止するまで闘い抜く」との宣言を採択した。島民らは集会のあと県森林整備課を訪れ、中電が建設用地造成のため県に申請した魚つき保安林指定解除の関係図画を縦覧した。住民らは祝島の漁業者が意見書の利害関係者と認められなかったことに講義し、同課職員と約 2 時間にわたって押し問答したが、議論はかみ合わないままに終わった。

●広島市民が田ノ浦を守る訴えを行っている

山口県が上関町長島田ノ浦の埋め立てを許可したことに危機感を抱いた一人の広島市民が、抗議の呼びかけをしている。手製の次のような呼びかけ文を送ってきた。一人でもできることをしたいという気持ちが伝わって来る。呼びかけにこたえましょう。

瀬戸内の希少生物の宝庫 上関町 田ノ浦を未来に！！

瀬戸内海の西側にある 上関町 田ノ浦 に行ったことがありますか？

大分と四国間の豊後水道から海流が瀬戸内海へ入り、広島方面と北九州方向に分かれる分岐点あたりに祝島があり、祝島から約 4 キロ離れた入り江が山口県上関町長島の田ノ浦です。



希少生物の宝庫と言われる田ノ浦によって、周防灘は瀬戸内海の本来の豊かさを今も保持しているといえます。

海藻（スギモクなど）、海藻類や底面生物（ゴカイ類、貝類、甲殻類など）の豊かさが、スナメリ（世界一小さなクジラ）などの水中ほ乳類や、多数の渡り鳥をささえています。

このような自然環境が一本釣りでの鯛や、新鮮なアジ、タコ、サヨリ、カレイ、ヒラ

メなどのゆたかな漁場を創っています。

この田ノ浦の埋め立て許可免許が、二井山口県知事から山下中国電力社長に
10月22日に渡されました。

田ノ浦を埋め立てて、そこに上関原子力発電所を建てる計画が進もうとしています。
田ノ浦の豊かな生命力あふれる自然を未来へと願います。
中国電力へ、ヨーロッパのように自然エネルギーからの電力を私たちに供給して欲しいこと等、

私たちの思いを手紙や葉書等で、伝えませんか。

下記の例文を参考にしてください、送ってください。

<例文1>

希少生物の宝庫と言われる田ノ浦に行ってみたいと思います。スナメリに会えるかもしれないし、カンムリウミスズメも出迎えてくれるかも知れません。田ノ浦が埋め立てられると、スナメリも生育できなくなるのかも…カンムリウミスズメも営巣できなくなるかも…電気を日々使っていますが、原子力発電の電気ではなく、自然エネルギーの電気を使いたいと思っています。EU は自然エネルギーへと移行していると聞きます。中電もぜひそちらの方を選択し、田ノ浦を埋め立てないでください。

<例文2>

田ノ浦が埋めたてられると、瀬戸内海の本来の豊かさが失われるようで心配です。埋め立てないでください。

送付先

〒730-8701 広島市中区小町 4-33
中国電力株式会社 社長 山下隆 宛



カンムリウミスズメ

ボイス・オブ・ヒロシマ

問い合わせ 増田 TEL/FAX 082-892-3386

●知事が鳥取砂丘共同監視を訴える

砂丘への落書きに罰則を加えることを決めた鳥取県の条例「日本一の鳥取砂丘を守り育てる条例」が論議を呼んでいるが、鳥取県の平井知事は斉藤鉄夫環境相を訪ね、監視活動の共同実施を国に求めた。環境相は「全面的に協力したい」と答えた。

環境省は自然公園財団鳥取県支部に非常勤の監視員を 2 人配置して落書きを監視しているが、冬期は監視していない。落書きについては今回の条例意外に法的な規定はなく、広告物に該当する以外では法律違反として取り締まることはできないという。県は、条例施行に合わせて砂丘付近に監視通報のための拠点を置くことや自然解説に携わる常駐の職員を数人派遣し、禁止行為の監視に充てる方針を示した。

鳥取県は環境省近畿地方環境事務所、鳥取市、鳥取大、地元代表と連携して「鳥取砂丘再生会議」を立ち上げる準備を行っており、年内には会議が始まる予定。再生会議は条例に定める「保全再生と適切な利用」の方向付けなどを行う。

【四国】

● 牟岐に世界最大級のハマサンゴ

徳島県牟岐大島に世界最大級と推測されるハマサンゴが存在することが「牟岐千年サンゴの森シンポジウム」（牟岐千年サンゴの発掘隊の主催）で明らかにされた。牟岐町川長の「海の総合文化センター」で開かれたシンポジウムの基調講演で、世界最長寿の可能性が指摘されたほか、意見発表では、地元中学生ら住民がその保護を熱く訴えた。

基調講演したのは、サンゴを研究している北海道大学大学院理学研究院の渡邊剛講師。その中で、高さ 8-10 m の牟岐大島のハマサンゴは、世界最大とされる台湾のものに匹敵するとし、比較的水温の低い高緯度の地域にこれほどの大型のハマサンゴが存在するのは奇跡的であると指摘。低水温により成長が遅いことを考慮すれば 1000 年ほど経過しているとして「世界最長寿かもしれない」と話した。また、ハマサンゴを調査して過去千年間の周辺の海や地球環境の変化を明らかにする学術調査の必要性も訴えた。

シンポジウムに参加した飯泉知事も「千年サンゴの価値をみなさんと世界に広げていきたい」と述べた。

【沖縄】

● 「サンゴ礁残した方がいい」麻生首相が言明

麻生首相は、普天間飛行場代替施設を建設する名護市辺野古沿岸部の自然環境について「ジュゴンのいる青いサンゴ礁は残した方がいいに決まっている。現実問題としてなかなか難しいと思うが、残された方がいいと私は思う」と述べ、サンゴ礁を保全すべきだとの見解を示した。参院外交防衛委員会で山内徳信氏（社民）への答弁で言明した。

それにもかかわらず、「日米合意もあり、海兵隊 8 千人のグアム移動もあるし、飛行場の移設返還は着実に進めなければならない」と述べ、在日米軍再編で合意した辺野古沿岸部移設を推進するというまったく矛盾した考えを示した。小泉氏以来、首相の言葉はそこまで軽くなってしまっているのだろうか。

2. 当会の現在の活動と予定

砂浜海岸生物調査をいっしょにやりませんか

海の生き物を守る会・OWS

海の生き物を守る会では、セブン-イレブンみどりの基金の後援で、NPO法人OWSと共同で今年から全国の砂浜海岸生物調査を実施しています。日本の砂浜を生き物のために取り戻そうと計画された調査です。調査は誰にでもできる方法で計画されていますので、少しでも多くの方が、多くの海岸でこの調査に参加していただけるようお願いいたします。

ご協力いただける方は、事務局までお申し出ください。方法と調査報告用紙をお送りいたします。なお、方法と調査用紙は希望者にはメールでもお送りします。当会のホームページ <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html> にも掲載しています。今月からは、NPO法人「海守」でもこの砂浜海岸生物調査に参加を呼びかけています。

●11月15日 田辺湾で自然観察会と講演会を

「海の生き物を守る会」では、今年度4回目の自然観察会を、以下の要領で和歌山県白浜町の京都大学瀬戸臨海実験所近くの番所崎海岸で行います。当日は午後から講演会も行いますので、多くの方が参加されますようにお近くの人に呼びかけてください。

国際サンゴ礁年記念

白浜海岸の自然観察会 と講演会

観察会（指導：久保田信京都大学准教授）

場所：白浜町瀬戸番所崎海岸（水族館前に集合）

日時：2008年11月15日（土）9:30-12:30

参加費無料 希望者は事前に連絡してください

講演会

「サンゴ礁の保全とその取り組み」大久保美弥（京都大学）

「海の生き物を守るために」向井 宏（海の生き物を守る会）

場所：京都大学瀬戸臨海実験所（白浜町瀬戸）講義室

日時：2008年11月15日（土）13:30-15:00

参加費：無料 どなたでも参加できます

主催：海の生き物を守る会 TEL:090-8563-1501

3. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報

【関東】

●外来生物分布拡大調査の勉強会：カワヒバリガイ

日本の自然にはいなかった淡水にすむイガイ（付着性の二枚貝，食用のムール貝も）のなかまで，特定外来生物に指定。生態から最新の分布情報まで，カワヒバリガイの全てを知ることができる機会です。<http://vege1.kan.ynu.ac.jp/forecast/index.html>

日時：2008年11月9日（日）10:00から午後まで

場所：利根川河口堰管理事務所（JR成田線下総橋）

プログラム：

- ・カワヒバリガイの生態 木村妙子・三重大学
- ・関東圏のカワヒバリガイの分布と生息状況について 伊藤健二・農業環境技術研究所
- ・午後は黒部川・利根川にて現地見学 案内者：伊藤健二・農業環境技術研究所

持ち物：長靴，昼食，参加費無料

申込先：〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-7，

横浜国立大学環境情報研究院，小池文人，Fax・電話 045-339-4356，koikef@ynu.ac.jp

●海洋ネット・第1回会合

「海洋・海岸環境の保全のための取組みを進めるため、海洋・海岸環境の保全に取り組む NGO や研究者等によるネットワークを形成し、各種活動を行う」ことを目的とした海洋ネットの第1回会合として、「海洋保護区」について学びます。

○テーマ：海洋保護区の定義と特徴、国内法制度について

○おはなし：加々美 康彦さん（鳥取環境大学 環境政策学科 准教授）

○日時：11月17日（月）17：30～19：30

○会場：WWF-ジャパン7F会議室 (<http://www.wwf.or.jp/aboutwwf/japan/map.htm>)

○参加費：1,000円（資料代含む）

○定員：30名（先着順）

参加希望の方は kobayashi@c-poli.org まで

●サンゴ礁保全と海洋保護区～ 生物多様性保全を考える ～

第5回 OWS 海のセミナー

2008年11月29日(土)14:00～17:40

私たちの暮らしは、さまざまな自然の恵みにささえられています。その自然を守り、未来に繋いでいくには、生命の多様さとそれらをささえる環境の多様さを学び、その価値を知ることから始まります。

今回の海のセミナーでは、国際サンゴ礁年を締めくくり、来るべき2010年の国際生物多様性年に向け、サンゴ礁の多様な自然とその大切さを学び、そうした環境を育む海洋保護区の実現に向けたアプローチを3名の講演者に解説していただきます。

講演 1 14:10～15:10



西平 守孝 名桜大学特任教授

講演：「サンゴ礁の自然をみつめて」

サンゴは、サンゴ礁の基礎を作り、多様な生物のすみかとなり、美しい景観を作っています。

多くの生物が共存しているからくりの謎解きが面白くて、サンゴ礁での観察を続けてきました。

ある生物がいることにより、他の生物もそこにすむことができるという「棲み込み連鎖」を通して見えてくる、サンゴ礁生物群集の成り立ちや、保全への取り組みについて、考えてみたいと思います。



写真提供：倉沢栄一

講演 2 15:20～16:20



キャサリン・ミュージック（日本名：水木桂子）日本水中映像株式会社学術コンサルタント

講演：「山と海は恋人」

サンゴは絶滅の危機に瀕しています。熱帯から極地まで、世界中の海は全て危機的な状況にあります。

陸上と海での人間の活動は、海の環境を徹底的に変えてしまいました。私たちの貴重な海洋環境に対する獰猛な変化のスピードを落とし、くい止め、そして元に戻すために、私たちは何ができるのでしょうか。

挑戦し、良い未来を願いましょう！しかし、変化を願う以上に、変えなければならないのです。



写真提供: Heat Wave

講演 3

16:30~17:30



向井 宏 海の生き物を守る会代表 京都大学フィールド科学教育研究センター特任教授

講演:「**海洋保護区をつくろう ~海の生物多様性保全に向けて~**」

昔、魚は無尽蔵でした。それが今では、鯨、マグロはもとより、大衆魚でさえも危うくなり、魚だけでなく多くの海の生き物が人知れず地域的、全国的にいなくなっています。その原因は、人間のなせる業であることが多いのです。そこで、海の生き物を守るため、人間が手を加えない場所を作ろうというのが、海洋保護区の実践です。しかし日本では、この思想はまだ多くの同意を得るにいたっていません。それは何故か、どうすれば保護区を作ることができるのか。それらの問題点を紹介して、一緒に考えてみたいと思います。



【北陸】

● SATOYAMAの生物多様性保全

～森・川・海のつながりを活かした人のいとなみ～

-----金沢大学「里山プロジェクト」シンポジウム-----

日時：2008年11月15日（土）13:00～17:30

会場：金沢大学 角間キャンパス 自然科学系図書館 大会議室（金沢駅からバスで約35分、金沢大学自然研前下車）

-----プログラム-----

◇趣旨説明 一笠木哲也・木村一也（金沢大学）

◇開会挨拶として

「能登半島における里山里海再生への取り組み」 一 中村浩二（金沢大学）

◇コーディネーターよりイントロダクションとして

「里山生態系変化と生態系サービスの持続性」 一 中静 透（東北大学）

◇基調講演

「里の水辺は誰のものかーこれからの里を考える」 菅 豊 (東京大学)

◇講演

「のり漁業から考える人と海のかかわり」 田村典江 (アマタ(株)持続可能経済研究所)

「森と里がはぐくむ海の幸」 山下 洋 (京都大学)

「クマとサケがつなぐ森と海」 間野 勉 (北海道環境科学研究センター)

「森は畑の恋人」 前藤 薫 (神戸大学)

「「里」の生物多様性ローカルホットスポット」 三橋弘宗 (兵庫県立大学)

-----趣旨-----

◇最近、里地里山そして里海の重要性に対する認識が深まってきました。2010年の生物多様性条約締約国会議 (COP10 名古屋) に向けて国際的視点からの SATOYAMA 評価への取り組みも始まっています。

◇森や川や海は、それぞれつながりをもって、地域に恵み (生態系サービス) をもたらしています。最近の人間活動ではこのつながりが軽視され、その結果としていろいろな豊かさをむしろ失っている、とはいえないでしょうか？

◇このシンポジウムでは、森や海や川をつながりを活かすような人のいとなみみについて議論し、これからの地域社会づくりや生態系管理について考えてみたいと思います。

主催：金沢大学「里山プロジェクト」 東北大学 GCOE「環境激変への生態系適応に向けた教育研究」 共催：金沢大学地域連携推進センター 金沢大学環日本海域環境研究センター 国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット

-----申し込み等----- 参加無料。メールか電話・FAXにて、以下まで事前申し込みを。名前、所属、住所をお知らせください。申込先＝金沢大学創立五十周年記念館 電話：076-264-6698 FAX：076-264-6699 Eメール：kakusato@ad.kanazawa-u.ac.jp 以下のページからチラシがダウンロードできます。

http://www.satoyama-ac.com/satoyama_blog/flier/archives/2008/10/satoyama.html

会場へのアクセスは以下のページをご覧ください。(駐車場多数あり)

<http://www.kanazawa-u.ac.jp/university/access/>

【関西】

● 播磨灘を守る会 第37回総会&学習会

11月9日(日) 13:30 たつの市御津町新舞子 民宿かもめ

学習会「ラムサール条約と新舞子海岸」

講師 小林聡史 (釧路公立大) 花輪伸一 (WWF・J)

主催・問合せ 播磨灘を守る会 (079-322-0224)

● ジュゴンと漁業の共存のための技術開発ー成果と今後の展望ー

<平成20年度海洋理工学会秋季大会シンポジウム>

日時：平成 20 年 11 月 10 日（月）11:00～20:00

場所：京都大学百周年時計台記念館 国際交流ホールⅢ

コンピーナー：荒井修亮、市川光太郎、新家富雄

2001 年度から 07 年度にわたり、ジュゴンと漁業との共存を図るための技術開発の一環として、タイ国沿岸ならびに沖縄県においてジュゴンの音響観察および海草藻場の観察等が行われた。タイ国で収集された生態情報を統合することによって、定置網・刺網による混獲回避を目的とした自動感知・通報システムを開発し、短期間ではあるが沖縄県での実証実験も実施された。さらにジュゴンの摂餌場である海草藻場の回復および造成技術の開発も合わせて実施された。本シンポジウムでは 7 カ年の成果を紹介すると共に、国内外のジュゴン保護に関する取り組みについて概観し、ジュゴンと漁業とが共存していくための方策に関して、今後の展望を議論する。

プログラム

11:00	開会
セッション 1	受賞記念講演（座長 門馬大和）
11:00-11:30	<業績賞>ウミガメ、オオナマズ、ジュゴンを追いかける 荒井修亮（京都大学情報学研究科バイオテレメトリーチーム）
11:30-12:00	<堀田記念奨励賞>タイ国タリボン島におけるジュゴン摂餌場の特性 中西喜栄（いであ）
セッション 2	音響学的探索、手法の開発と応用（座長 荒井修亮）
13:00-13:40	音響探査の理論 赤松友成（水工研）
13:40-14:10	測器の開発と改良 新家富雄（SIT）
14:10-14:30	タイ国でのジュゴン音響観察 市川光太郎（京大院情報）
14:30-14:50	自律型無人探査機でジュゴンを追いかけられるか？月岡哲（JAMSTEC）
セッション 3	漁業との共存に資する生態情報と技術開発（座長 新家富雄）
14:50-15:30	ジュゴンの摂餌に関する知見 向井宏（北大名誉教授）（未確認）
15:30-16:00	マルチファンビームソナーによるジュゴン検出 中村良夫（広和）
16:00-16:30	海草藻場造成の可能性 笠原勉（いであ）
セッション 4	ディスカッション ジュゴンと漁業は共存可能か？（司会 荒井修亮）
16:40-17:45	パネリスト：諸貫秀樹（水産庁）、原武史（全国漁場環境保全対策協議会） および発表者
17:45-17:50	閉会の挨拶 コンピーナー
18:00-20:00	イブニングセッション（会場：カンフォーラ）

4. 事務局便り：

- 講演での講師派遣を希望される方は、事務局へお問い合わせください。沿岸の生物やその環境についての問題、沿岸生態系の構造、保全、再生、地球環境問題、環境教育など

に関する講演を行うことができます。

- 本会へのカンパをお寄せください。口座は埼玉りそな銀行指扇支店 3896180。
- 企画案などその他なんでも本会の活動に関することは、事務局あてにお寄せください。
- このメールマガジンは、毎月1日と16日の2回発行の予定ですが、都合によって遅延や中止もあります。配信を希望する方、送りたい方がありましたらアドレスをお知らせください。また、パソコンを使えない方には印刷体でもお届けします。その場合は、郵送料をご負担していただくことがあります。
- このメールマガジンは転載自由です。海の生き物に関心を持っている方に広く読んでいただくために転送をお願いします。ただし写真を別の目的で使用する場合は事前にご連絡ください。海の生き物や海の生き物を守る運動についての情報など、また各地で行われている海の生物の観察会、研修会、その他の行事に関する情報もお寄せください。「うみひろも」のバックナンバーをごらんになりたい方は事務局までご一報ください。
- 本会は自然観察会や講演会を各地で実施しています。各地で開催を希望される方、開催をお手伝いできる方は、ご一報ください。また、各地の団体との共催も行います。ごいっしょに講演会や観察会をしたいと思われる団体からも提案をお受けします。

5. 編集後記

事務局のパソコンを光通信に切り替えるなどの変更のために、しばらくパソコンが使えない状態があり、多少、配信が遅れましたが、ようやく27号をお届けできます。今年第4回目の自然観察会を和歌山県白浜町の番所崎で開きます。ぜひご参加ください。(宏)。

6. 「うみひろも」と「海の生き物を守る会」について

この「うみひろも」は「海の生き物を守る会」のメールマガジンです。会員および関心を持っていただけると思われる方にお送りしています。配信が迷惑と思われる方は事務局までご連絡ください。「海の生き物を守る会」の趣旨および組織の概要は会のホームページ <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html> をごらんください。

海の生き物を守るためになにかしたい！というあなたに！

会員募集中です！

会員は本会の趣旨に賛同できる個人・団体とします。会費は個人 2,000 円/年、団体 20,000 円/年。匿名による参加も可能です。会員は、当会の名前を使って各地で海の生物とその環境を保護・保全する活動を行うことができます。活動は当会の発行するメールマガジンなどを通して広く通知されます。会員は本会の名前で各地の活動のための助成金申請をすることができます。

入会希望の方は、事務局 hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp（向井）まで、氏名、住所、メールアドレスをお知らせください。

事務局員も募集中！

事務局を手伝っていただける人を探しています。パソコンが使える環境にあれば近くにいなくてもお手伝いいただけます。ただし、無収入ですので海の生き物の保全・保護に関心とボランティア精神のある方。

メールマガジン『うみひろも』第27号 2008年11月1日発行

発行&編集人「海の生き物を守る会」代表 向井 宏

〒606-8244 京都市左京区北白川東平井町 23-1 グリーンヒル北白川 23

TEL&FAX:075-703-7205; 090-8563-1501

メールアドレス：hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp

ホームページ URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

銀行口座：埼玉りそな銀行指扇支店 3 8 9 6 1 8 0

